

(様式第 1 号)

■ 会議録 □ 会議要旨

会議の名称	令和 6 年度第 2 回芦屋市福祉のまちづくり委員会
日 時	令和 7 年 3 月 1 8 日 (火) 午前 1 0 時から正午
場 所	芦屋市役所東館 3 階災害対策本部オペレーションルーム
出 席 者	委 員 長 藤井 博志 副委員長 松本 明宏 委 員 姫野 通子、岡田 雅代、池内 くみ、北村 広美、岩本 仁紀子、 山本 弘美、吉野 哲夫、富久 ちづ子、竹迫 留利子、笠谷 泰宏、 帰山 陽子、浅田 陽一、小川 智瑞子 欠席委員 山田 弥生 関 係 者 第 2 層生活支援コーディネーター 船寺 恵子、藤本 亮、 寺岡 由記、崎山 真澄 関 係 課 こども福祉部福祉室生活援護課 阿南 尚子
事 務 局	芦屋市社会福祉協議会 山川 範、三谷 百香、宮平 太、針山 大輔、三芳 学、和田 真砂子、 青木 明日香 こども福祉部福祉室地域福祉課 岩本 和加子、吉川 里香、亀岡 菜奈、上月 祐紀
会議の公開	■ 公開 ----- □ 非公開 □ 一部公開 会議の冒頭に諮り、出席者○人中○人の賛成多数により決定した。 〔芦屋市情報公開条例第19条の規定により非公開・一部公開は出席者の3分の2以上の 賛成が必要〕 <非公開・一部公開とした場合の理由>
傍 聴 者 数	0 人 (公開又は一部公開の場合に記入すること。)

1 会議次第

(1) 開 会

【協議会の成立について】

開始時点で委員 1 6 名中 1 5 名の出席を確認

(2) 議 事

ア 報 告

(ア) 多機関協働推進委員会の報告について

(イ) 地域づくりの活動報告について

イ 協 議

(ア) 地域づくりにおける地域でのつながりについて

(3) 閉 会

2 提出資料

事前資料 1 多機関協働推進委員会の報告

事前資料 2 「地域づくり実践の中長期展開ビジョン」に基づいた取組報告

事前資料 3 事前アンケートまとめ

3 審議内容

(藤井委員長)

皆さん、朝早くからご苦労さまです。

この福祉のまちづくり委員会は、今年度発足したばかりで、特に福祉が冠つていますが、まちづくりを考えていくというのは、皆さんが知り合って、それぞれの活動を理解した上でいろいろな協働が始まっていくと思いますので、今日は、前回に引き続きみんなで知り合おうということで、事前アンケートも依頼をしており、皆さんとの相互理解、話し合いを深めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

まず、地域福祉の中で、多機関協働と福祉のまちづくり、この2本柱で進めておりますので、事務局から報告をいただきたいと思います。

(2) ア 報 告

(ア) 多機関協働推進委員会の報告について

(事務局 亀岡)

それでは、議事の報告1、多機関協働推進委員会の報告をさせていただきます。事前資料1をご覧ください。

まず、なぜこの報告をするのかというと、皆さんに委員をしていただいているこの福祉のまちづくり委員会では、主に地域づくりというところで、孤立しないようなまちづくり、居場所であったりとかつながりであったり、どんな地域になっていったらいいかのようなところを話し合っていきたいと考えております。

一方で、多機関協働推進委員会では、高齢分野、障がい分野、生活困窮、子どもといった各分野の専門職が集まり、世帯全体を丸ごと支援していくために、どうすれば分野を超えて連携しながら、困っている方の支援を行っていくのか、困っている方が社会や地域の中に関わっていき、地域の中で暮らしていくために、どのような支援ができるだろうかといったことを考えております。

例えば、8050問題と言われるように、80歳の高齢者と50歳のひきこもりの方がいたときに介護サービスのある高齢者だけを支援して、50歳のひきこもりの方には制度がないから、見て見ぬふりをするような形ではなく、世帯全体で見て、関係機関の支援者の方が、連携しながら支援していくことが必要であると考えております。

また、ひきこもりの方に支援を行う中で、社会への一步を踏み出せる段階になったときに、地域の中で受け止めてくれる居場所や、職場といった社会参加の場が、地域や社会に必要なになっていきます。ですので、こういった社会参加の場も含めて、孤立しないようなまちづくり等を考える福祉のまちづくり委員会というところと、断らない相談支援や社会への参加支援というのを進めていくために、どう支援者同士が連携していくのかを考える多機関協働推進委員会が共に連携することで、地域福祉を進めていきたいと考えておりますので、それぞれの委

員会で話し合った内容を共有していきたいと考えております。

ここからが多機関協働推進委員会の報告になります。昨年12月に開催した委員会では、今年度の専門職間の連携や、社会への参加支援に関する取組について、その取り組んだ内容と、成果と課題、できていること、できてないところを協議しました。

今年度取り組みました内容は、専門職の方々が支援を考えるときに、専門職間で連携することというのはもちろんですが、制度上のサービスに繋ぐことだけではなく、地域の居場所へ繋いだり、地域の中で役割を持って活躍できる方法はないかといった地域への参加支援の視点を持って、支援につなげてほしいということを目指しておりました。

例えば、先日、高齢者の方の支援について、高齢分野だけではなくて、障がい、生活困窮、権利擁護、行政など、様々な関係機関が集まって、支援について考える会議を行いました。そこでは、ある高齢者の方が、認知症が進んできたのをきっかけに、今までしていたボランティア活動をやめてしまったので、地域で活躍したり、誰かとつながれるように、何かできることはないだろうかということを、いろいろな分野の支援者が集まってアイデアを出し合い、出てきたアイデアについて、本人に確認をしたところ、最終的には、昔遊びを中心に活動されている地域の団体につながりそうという結果になりました。

このように、いろいろな分野の専門職が集まって、支援について考える会議や研修を通して、地域や社会との関わりやつながりづくりについて、話し合う機会を増やした結果、専門職が地域とのつながりづくりを考える視点が育ちつつあるのではないかと、成果として捉えております。

次に、課題としては、3つ、資料にも記載していますが、1つ目は、様々な関係機関が福祉センターにも集まっています。そこは顔が見える関係性があるので、連携を取りやすい環境にあるのですが、各地域にある高齢者生活支援センターや、学校などの教育関係はつながりをつくるのが難しいため、福祉センター外においても、ネットワークを広げていく必要があること。

2つ目が、今は本人や家族のバランスが何となくうまく取れていて、表面上は問題がないけれども、将来的に、本人や家族などだけでは対応が難しくなり、専門職の関わりが必要になると予測されるケース。例えば、8050の一手手前の、70歳、40歳の世帯で、今は親が元気だけれども、子供がひきこもりの状態で、予防的な関わりが必要になるケースについても、様々な機関から相談が上がってくる仕組みにする必要があるのではないかと、ということ。

3つ目は、取組内容が専門職同士の連携や専門職から見た地域とのつながりづくりに寄りがちなので、もう少し地域の方々と一緒に考えていく地域づくりに向けた支援についても、話し合いをしていかないといけないのではないかと、といったことで、現状の成果と課題を話し合いました。

この福祉のまちづくり委員会でも話し合いを進める中で、これは専門職間の連携が必要というような話が出てきた場合には、多機関協働推進委員会で協議し、双方に連携しながら進めていきたいと考えております。報告は以上です。

(藤井委員長)

ありがとうございました。質問があれば、また後でお受けいたします。

私から補足しますと、事前資料1の2つの二重円が委員会の位置づけということで、右側が、私たちの福祉のまちづくり委員会の領域ですが、もう一つ、左側が、多機関協働推進委員会で、主に専門機関、専門職の方が連携を考えていく会、この2つが地域福祉の柱の大きな委員会で、これが合わさって、地域共生社会という1つの絵になったらいいなという大きなビジョンです。

少し解説しますと、多機関協働という言葉は少し耳慣れないと思いますが、今も医療、介護、福祉の連携ということが核です。この地域福祉での多機関協働は、医療、介護、福祉だけではなく、特に福祉に関しては、高齢、障がい、児童、困窮、それと住宅や教育まで、最低範囲にした多機関協働なのです。ですから、介護保険の中で医療、介護、福祉の連携と言っていたのですが、もっと広い多機関協働というイメージをお持ちください。

それと、もう一つここでの大きな課題が、孤立です。孤立は住民の方と一緒に考えないといけません。専門職だけでは無理です。ですので、この左側の矢印が右のほうに向かって、地域共生社会のところに行くプロセスの中で、住民の方と専門職が、いかに協働できるような芦屋の土壌をつくっていきけるのかということが大きな課題で、先ほどご説明いただいたように、地域側の福祉のまちづくり委員会の課題でもあります。

それと、もう一つ、これからご説明いただきますが、この福祉のまちづくり委員会では、専門職と協働ということと、要するに、それは孤立をなくすということと合わせて、福祉活動をどういうふうに一般のまちづくりにしていくのか。逆に、まちづくりの中に、福祉活動をどう埋め込んでいくのか。こういう福祉のまちづくり委員会の中でも、福祉とまちづくりを巡って、両方のアプローチを皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

そのことと関連して、次の地域づくりの活動方法について、お願いします。

(2) ア 報 告

(イ) 地域づくりの活動報告について

(事務局 針山)

社会福祉協議会の針山です。私からは事前資料2の資料について報告いたします。

ご承知のとおり、実際に取り組んでいるのは私どもではなく、今日お集まりの皆さんのような地域で様々な形で活動されている方や関係者であるということは、お含みいただきたいと思います。

これからご報告したいことについて、ポイントを4点に絞って書き出しております。

1つ目が、地区福祉委員会、私たちが大事にしている地域での基盤となっている組織ですが、次期改選をにらんだ動きが取られています。

2つ目に、福祉推進委員の福祉学習への参画を契機とした連携の広がり。

3点目に、本日も各テーブルに座っておりますが、地域支え合い推進員の皆さんが、新たなプラットフォームづくりに向けて、試行的に取り組まれていること。

4点目に、本委員会の松本副委員長が率いていただいている「ほっとかへんネットあしや」でプログラムの開発プロセスで構築されたネットワークについて、どちらかというところ専門機関のところになるのですが、これについて、要点を4点に絞ってご説明したいと思います。

1枚目、これは社協が地域づくりとして様々な形で実施されている活動の全体像と、この時期に、こんなことが取り組めたらいいなと考えている工程のイメージ図です。

それでは、次のページの「小地域福祉活動」です。(1) 地区福祉委員会、市内に小学校区ごとに、9つの委員会がございまして、この委員会と各小・中学校、保育園で実施している福祉学習が地域福祉、地域づくりの基盤となっている活動だにご理解いただけたらと思います。

令和6年度の主な取組と成果について③を取り上げますと、これまで地区福祉委員会の活動は、高齢者が多いこともあるので、高齢者の見守りや関わりが中心でしたが、福祉学習への参画によって、コミスクとか見守り応援団などの子どもや子育ての分野の動きに関する情報共有や子ども・子育ての分野に関する関心が高まっています。地区によっては、高齢者対象の行事を多世代交流の行事にするなどの広がりが見えてきています。

また、(2) 福祉学習について、②を取り上げますと、民生委員さんや福祉推進員さん、つまりその地区福祉委員会の委員さんたちが、社協の訪問介護部門などと一緒に、福祉学習に参画していただくようになりました。このことによって、コロナ禍で止まっていた学校園等のネットワークが再開してきているという手応えを感じられています。

今後の課題と展望として考えているところをピックアップしますと、まず、(1) 地区福祉委員会に関しましては、子ども・子育てをはじめとした委員会をやりたい活動を支え、推進していくためにも地区福祉委員会が協働できるような組織や団体とのネットワークづくりが重要ではないかなというふうに考えています。

(2) 福祉学習につきましては、福祉学習をきっかけにした新たなつながりづくりです。学校・園に限定しない、新たな福祉学習の場と新たなネットワークづくりを考えていけたらと考えております。

次に、「生活支援体制整備」についてご説明します。多様な主体の活動の推進、人と人、人と場所のつながる仕組みづくりというのが、私どもの地域福祉推進計画に掲げている取組です。

(1) 多様な主体の活動の推進の②について、住民の活躍の場(参加支援)を目的にした第2回一芸披露会を開催しています。昨年度は地域支え合い推進員を中心に開催しましたが、このたびは、地域支え合い推進員が核になりながら、住民さんも実行委員会という形で組織の中に入ってもらって、企画段階から参画していただいているというところが、大きな手応えと思っています。

(2) 人と人、人と場所のつながる仕組みづくりについては、活動者同士の情報交換や交流

の場づくりとして、例年どおりフードドライブによる食品提供会と地域活動団体交流会を年2回開催しています。活動者同士の交流から、新たな協働が生まれていますので、まさにネットワークの広がりではないかなという手応えです。

課題としては、(1) 多様な主体の活動と推進については、新たな活動者を呼び込むための住民さんの関心と呼び込む取組の充実です。住民さんが、まちづくりとして興味関心のあるところと、福祉をうまく重ねられないかというような意味合いです。

(2) 人と人、人と場所のつながる仕組みについては、地域住民や活動者と専門機関職員が出会い、相互の問題意識や地域の課題を共有し、解決に向けて協働する継続的な場づくり。プラットフォームのようなものが、もう少し積極的に展開できるといいのではないかと考えています。

最後に、「活動推進のための基盤強化（多世代交流拠点づくり、地域人材の育成）です。

(1) 多世代交流拠点づくりについては、地域における新たな活動の創出に向けた協議の場づくり、これを芦屋市社会福祉法人連絡協議会「ほっとかへんネットあしや」で実務者が集まって展開しています。継続的な協議のもとで、子どもの居場所の取組をスタートしました。民生委員さんや福祉推進員さんにも知っていただいているので、イベントの共催や日常的な連携が生まれていますので、これもネットワーク広がりかなというふうに思っています。

(2) 地域人材の育成については、本来的には、住民さんと地域の方が一緒に話し合っ課題を解決できることをゴールにしていますが、専門職の多機関協働支援会議の構成員に「ほっとかへんネットあしや」の皆さんに参画していただくようになりましたので、専門機関を超えた支援ネットワークの広がり、基盤づくりになっていっていると感じています。

課題について2点。(1) 多世代交流づくりにつきましては、③番、住民さんにとって魅力的なプログラムを生み出すためには、柔軟なアイデアや柔軟なアイデアを生む競技の場が必要だなというふうに感じています。これは今後の課題かなと思っています。

それから、地域人材育成につきましては、①番、専門職と住民さんが、一堂に会して学び合う場のデザインとか、その具体的なプログラムを考えていく必要があるかなというふうに考えて、思っております。以上です。

(藤井委員長)

報告内容については、少しずつ理解していただけたらいいかなとは思いますが、何かご質問等はございますか。よろしいですか。また、話し合いの中で疑問が出れば、出していただきたいと思います。

それでは、本日の話し合いですね。地域づくりにおける地域でのつながりについて、ご説明をお願いします。

(2) イ 協 議

(ア) 地域づくりにおける地域でのつながりについて

(事務局 針山)

協議のテーマは、「地域づくりにおける地域でのつながりについて」となっており、各グループでお話いただくのですが、その意図について、ご説明いたします。

皆さんにご協力いただきました事前アンケート、事前資料3をご覧ください。

アンケートを拝見していきまして、事務局では1つ仮説を持っております。皆さんは、本当は団体として取り組みたいことが色々ある中で、様々な事情で取り組んでいくことが少し難しい、自分たちだけではしんどいけれど、どこかの団体と組めるならできる可能性があるのではないかと考えています。

つまり、事前アンケート項目にもありました、誰とどんなふうにつながっていけると、もう少し活動が推進できるといったことについて、お互いにお伝え合っていた中で、皆さんの団体の活動の広がりの可能性等が見えてくると考えています。そこで見えてきたものが、本委員会がこれから取り組んでいくことではないかなと考えておりますので、皆さんに忌憚ないご意見をお聞かせいただき、これからのこの福祉のまちづくり委員会のテーマとして扱っていければと考えております。

(藤井委員長)

ありがとうございます。要は、協働を促進していくということなので、お互いのそれぞれの思いを出していただくと。対話量が多いほうが後で整理しやすいですね。

また、来年度それに向けて、具体的に何を協議していくのかという、そういうヒントをいただけるものと思っておりますので、ぜひたくさんみなさんでお話したいと思います。よろしくをお願いします。

(グループディスカッション)

(事務局 針山)

それでは、各グループのお話について全体で共有したいと思います。

(4 グループ)

困ったと言える関係づくりや仲間づくりが大事だねというところで、自分がボランティアをするのは積極的だけど、自分ができなくなったら、自分に対して助けてもらうのは、嫌だなという人も結構いるので、助けたり、助けてもらったりする関係づくりが大切だねという話がありました。

また、学校では、体験学習等で関係機関と連携をもっと取りたいのでコーディネートしてくれる仕組みや人がいれば、それぞれの課題を見つけてくれて、うまくいくのではないかと聞いた話や、ひとり一役活動推進事業という、ボランティアをしたい人とボランティアをしてもらいたい人を登録して、それぞれマッチングする事業があるのですが、もう少し周知して、皆が

お互いに助け合える仕組みが広がっていけばいいなという話がありました。

多文化共生という視点でのお話では、何かあった時の手助けも大事なのですが、それよりも、日々の生活の仕方、例えば、歯の衛生等、色んなことの情報提供をしていくことで、地域ともつながりながら共生していけるのではないかというヒントをいただきました。

多文化共生センターひょうごでは、主に東灘を中心に活動されていますが、外国の方は阪神沿線上に多く住んでおられて、例えば、コンビニのお弁当をつくる工場で一生懸命働かれており、生活環境としては似たような状況にあり、そこでの生活課題もやはり地域とつながりながら何か見えてくるものもあると思うので、日々の生活の習慣を一緒につくっていくような支援があるといいなというお話になりました。

(3 グループ)

自治会の活動として、町ごとの活動が多いのですが、市内の老人会の活動を見渡していると、自治会とうまく協働できているところは、活動の規模も大きくなっているのもっと自治会と活動の協働をやっていききたいという話が出ていました。

また、防災訓練等、町ごとだけではなかなかできないことも、隣の町と合同で実施しているところもありますので、その他にも広い範囲で一緒にできたらいいなという話も出ました。

小学校区という範囲でいくと、地区福祉委員会も小学校区の単位なので、例えば、朝日ヶ丘コミスクでは、地区福祉委員会も参加するし、自主防災会やPTAも参加するという形で、地域のあらゆる団体が参画して、色んなお祭り等の活動をしています。

そうすることによって、活動そのものが大きくなるということもありますし、お互い知り合うことができ、例えば、PTAの方とお知り合いになって、ゆくゆくは、福祉推進委員や民生委員等の担い手等、今後のつながりができるのかなという話がありました。

また、市民活動で団体や自主的に活動されている方がおられますが、なかなか地域ごとの活動ではないので、つながることが難しいのですが、団体同士の交流会を企画すると、たくさん集まられるということなので、やはりつながりたいという気持ちは持っておられるので、把握している活動団体だけの交流会ではなくて、もっと違う分野や他の方も入ったような交流会ができれば、つながりが広がり、もっと地域が活性化するのではないかなと、話が出ました。

(2 グループ)

まず、日常生活の中で、障がいのある方との接点が少ないというお話から始まりました。ただ、子どもたちにとっては、今は公立小学校で、障がいのある子と一緒に授業を受けて同じ形で生活をするというのが普通になってきているけれど、学校を出て、社会に出ると、障がいの方との接点が日常の中で大分減ってくるので、大人をどう取り込んでいくのが大事なかなという話が出ました。

また、地域の中での障がいのある方とのつながりのきっかけとして、防災訓練があるので障がいのある方にもお声がけをすると参加してくれたので、やはり出ていける、地域に参加して

いける場所というのは、皆さん、求めていらっしゃるのではないかといったお話が出ました。

次に、笠谷委員から三田谷治療教育院さんに協力して、ひきこもりの方の支援をされており、本社の植栽を、月に一、二回、1時間等作業してもらっており、初めは、話したりということはなかなか難しいですが、何度か来てもらっているうちにお話しされたり、やはり労働してお金をもらうということに、すごくやりがいを感じているということで、仕事をして、その仕事を会社の方に確認していただいて、きちんとしてくれて、ありがとうございます、これが御礼です、と、対価のお金を渡されると、ものすごく喜ばれるというお話をいただきました。こういった社会に参加して、自信が得られるという場というのは、とても大事だというお話がありました。

その中で、居場所というのは、色んな方がいらっしゃるので、色んな居場所の形が必要だなというお話もありました。こういった少し頑張れば、外に出てこられる方であれば、経済社会に参加できるような居場所、一方で、外に誰かのサポートがないと出てこられない方向けの居場所というのにも必要。また、働いている方で、なかなか地域に溶け込めない方が、何か地域とつながれるような居場所等、色んな形の居場所が必要で、その人の生きがい、やりがいを引き出せる居場所というのを考えていかないといけないというお話もありました。

また、芦屋市社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）や各法人で地域のイベントをされているその思いとしては、地域のイベント等で地域の方と交流することで、何か本当に困った最後のところで、やっと関わりが持て、その方が暮らしたい生活は難しくなったときに関わるのではなくて、日頃からイベント等で交流して、顔見知りになっておくことで、相談の敷居が下がって、ちょっと相談したいくらいの段階で関わっておくことで、その方の人となりを前から分かっている、その方が暮らしたいと思える生活を、一緒に支援していくような形で支援していけたらなというお話をいただきました。

（1 グループ）

お話をまとめますと、1つ目、つながりづくり、2つ目、役割づくり、3つ目、出会いの場づくり、この3点です。

1つ目の横のつながりづくりについては、皆さんご承知のとおりで、地域でつながりがやばりなくなってきたので、イベントがあつたら、そこに人が出てくるということを、皆さん体験されていますが、そのイベントを通してつながっていくということを、これからもやっていかないといけないかなということは、皆さん感じているところと思っています。日常的なお付き合いを、どう地域に広げるかという課題だと思います。

それから、2つ目の役割づくりについては、それぞれ委員会や組織で団体の運営をされているのですが、ゲストとホストが完全に線が引かれていて、ゲストはいいけど、ホストは嫌、つまり、迎え入れるのは嫌だけど、あつたら行くという感じなので、ここの線引きをどうなくすか、一体化するかということで、ゲストで来る人に、いかにホストとしての役割を担っていただけるかという仕掛けが、これから必要なのではないかなというご意見がたくさんありまし

た。

それから、最後の出会いの場づくりについては、相乗りしたいと思っている人と相乗りしてほしいと思っている人が出会ったり、それから、もう少し活動したいなと思っている人と、活動してほしいなという人が出会ったりするような、出会いの場、プラットフォームが、もう少し活動を推進していくためには必要なのではないかというご意見でまとめました。

(藤井委員長)

ありがとうございました。多様な意見が出て、事務局にはまとめていただくわけですが、実は地域づくりは、答えがありません。今、社会構造が激変していますから、これをやれば効果的だということが出ないものですから、逆に言うと、小さな芽が出ているヒントをたくさんいただいて、それをたくさん並べて共有するということが非常に重要で、その中から、だんだん分かってきたりする、そういうプロセスだと思います。

ですので、今日出たものも、それぞれのこれは生かせるなという仮説でいいんです。皆様のご発言の中から、大切な言葉をいただきました。それを項目ごとで、さっき1グループの針山さんがいいまとめ方をしましたが、皆様のおっしゃっていたご意見を固めて、どのようなことがここで決まりましたとか、そういうまとめ方を、この委員会ではしていただいて、行政や社協は関連の委員会や関連の部署に、こんな意見が出たということをしちゃんと投げていただく。

それと、特に、地域福祉課や社協は日頃、地域づくり、皆さんと接しているわけですから、日頃の活動のヒントの蓄積にしていくということが皆様に参加していただいた委員会の成果です。

もう一つは、皆さんも、まとめの資料を見て、こういうことを話しましたよと皆さんのメンバーに返していただくという作業をしていくと、この話し合いが積み重なっていくというふうに、今日、聞いて、改めて感じましたので、ぜひ事務局の方は、そういうまとめ方に苦勞をしていただきたいと思います。

また、皆さんの意見を聞いて、私の考えていることと複合すると思いました。やはり、この福祉のまちづくりを考える背景は、社会構造が変化をして、少子高齢化であることと、もう一つは、家族の単身化、縮小化と単身化なのです。これが、もう決定的に多い。

一人暮らしが増え、家族もすごく小さい老々夫婦世帯や独り親家庭、そういう話ですから、当然、社会のつくり方が変わってきている。その大きなところは、地縁型の活動が、だんだん弱くなっていきます。自治会はすごく大切なのですが、今までの自治会の運営だと、当然、地縁型なので世帯でつながっているつながりです。そこが単身化するので、自治会は弱くなっていくというのは客観的な事実です。

そして、次に何が出てくるかというと、個人の活動です。要するに、テーマ型の活動になるという動きです。ところが、テーマ型は地域を追えません。だから、結論的には、自治会のような地縁型の基盤は弱くなっていくけれども、そこを基盤にテーマ型の活動が地域全体で何

かやりましょうという話にはならないのです。小さな思いのグループの集まりが多様にある世界に、これからなっていくというような気がします。

逆に言うと、小さな自分たちがやりたいというグループの集まりを大きく、さきほどの地域が、皆でそれを話し合って、1つの基盤にしていく、思いの基盤という、そんなイメージが仮説として成り立ちます。

だから、今後の地域づくりのイメージで、テーマ型と地縁型というのは、そういうことでご覧いただき、考えたらいいいのかなと思います。地域で共有していくというのは、どうしても小地域になっていきます。テーマ型は、広域になっていきます。だから、両方大切だということにもつながっていくと思います。これが、これからの地域づくりの大きなイメージの1点です。

次に、先ほどのグループディスカッションで1グループを聞いていて思ったのですが、やはり最近、多世代にものすごく関心がありますね。子どもと多世代、皆が引っ張られ、共感するテーマで、おそらく、多世代というのは、地域で子ども、大人、高齢者がつながっていきたいという潜在的な暮らしの欲求があるのでしょうか。そういうことが、結構つないでいくのではないかと感じました。

3点目は、キーワード。担い手がない時代で、1人の担い手が頑張るという世界は、これからは難しいので、皆がおっしゃっているのは、皆で少しずつ手伝う。だから、皆でやりましょうという。役割を分散化させて、みんながやれるやり方です。

もちろん、バリバリ活動するグループもあって当然いいのですが、大きくはみんなで分散してやる。そうすると、1団体が何かするというよりは、団体同士が交流していくということ、今日、話にでていましたが、これが何かというと、団体を閉じるのではなくて、広がりましょうと。その先に団体同士のつながりを超えて、団体の中の個人と団体の中の個人が、また知り合うというような、団体の関係と個人との関係の交流になっていくのかなと、聞いていて思いました。キーワードは「開く」です。

専門職の多機関協働に対して、地域は多団体の協働、多個人の協働ですね。そういうようなイメージを持ちました。それが人のつながりの在り方になるのかなと。こういうことが積み重なっていくと、課題中心で話すことも重要ですが、いつかはこんなつながりをしたい、やりたいことリストが地域の中でメニューとして、皆こんなにやりたいことがあるのだ、ということが地域ビジョンのような感じがします。

なので、やりたいことリストや、こうすれば皆元気が出るようなこと、そういうものの蓄積を、どんどんしていけばいいかなと感じました。

最後に、さっきの3世代というのは、多世代共生ですね。多世代共生と、こちらのまちづくりの中では、多文化共生です。その中で、外国籍の方と障がいのある方、ひきこもりの方の話が出ました。特にこの3つが多文化共生の中での課題で、ここをもう一步どう深めていくのかということも感じました。

芦屋市は、統合教育がどれぐらい進んでいるのでしょうか。他市より頑張っているというこ

とを聞いたのですが。

(浅田委員)

学校支援課の浅田です。インクルーシブのほうも、他課で扱っていますので紹介しますと、特に芦屋の子どもたちは、インクルーシブということで、多くの事情をお持ちのお子さんも触れ合っていく中で、共に育ち合っていこうということを大切なテーマにして取り組んでいるところです。全国的なあり方と芦屋市の体制の違いで当然いいこと、そして、デメリットも存在はしているのですが、ただ、ポイントとしては、共生していくということを大切にしていこうということを進めています。

(藤井委員長)

芦屋市の実情を知らないところもあるので理屈になりますが、国連の障がい者の権利委員会の中のインクルーシブというのは完全統合なのです。

ところが、日本の政府のインクルーシブというのは、特別支援学校をつくって、そこで分離し、また、合わせようと。これはインクルーシブでないのだけど、日本は独自の解釈をして、非インクルーシブをインクルーシブと言っています。

だから、最初から分けたら駄目でしょうという、そういう根底があって、おそらく、芦屋市は本当のインクルーシブに近い活動をされている。これは、実は根底的に福祉のまちづくりを考えていくときに、すごく重要なことなのです。その現状も踏まえながら、どのように障がいのある方が、この地域の中で一緒に暮らしていけるのかということを、どこかで皆でお話したほうがいいかと思います。それはおそらく、外国籍の方の地域で一緒に暮らして、お互いの価値を認めていく、文化を認めていくということとつながるかなと思います。改めて、こういうことを考えるときに、教育問題と防災の問題を軸にすると、皆話し合うのだなということも合わせて思いました。

もう一つ、今、ひきこもりの方について地域でやっと思いが出てきました。働くという支援と一緒にしていただいているというのは、すごくよく、これとワンセットで居場所という話が出てきました。そういう方の支援のときに、家に閉じ籠もる次の段階で、家から出て、居場所に行って、それができたら仕事に入ろう、という、この一直線のような感じがしますが、全然そうではなくて、ずっと居場所が根底にあるのです。居場所があって、居場所の中でどまっている方と、中間的な就労している方と、一般就労に行っている方と、やはり居場所がずっとないとなかなかもちません。

だから、ひきこもりの方の居場所づくりと、高齢者のサロンの居場所づくりと、ちょうど両極にある話として、居場所づくりをどのように地域の中で考えていくのかというのも今日の話の例として出ました。この委員会の中では、どれを重点に、来年度1回、1回話していくのかということをもた皆さんと考えられればと思います。

(事務局 吉川)

本日は各グループで、それぞれでお話しいただきまして、やっていかないといけないことがたくさんあるということを、本日再認識したところです。また、今後、せっかく皆さんが、いろいろ持っておられることを地域の中に、どのように広げていくのかというところを、事務局でも考えながら本委員会を進めていくということと、地域の中での活動を広げていけたらと思っております。

次回の委員会につきましては、夏頃以降に開催できればと思っております。日程が決まりましたら、改めて、また事務局からご連絡させていただきますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

(藤井委員長)

それでは、閉会させていただきます。皆さん、ご苦労さまでした。

閉 会